



関西大学

大阪都市遺産研究センター

NewsLetter

No. 6 2012 年 6 月 30 日

目次

第 3 回大阪都市遺産フォーラム「織田作之助と『大阪』」	1
平成 23 年度第 2 回研究例会	2
平成 24 年度第 1 回研究例会	2
フィールドワーク「織田作之助の『木の都』をあるく」	3
第 2 回大阪都市遺産研究会	3
ホームページに「可視化チーム」のサイトを開設	3
新刊紹介・彙報	4

第 3 回大阪都市遺産フォーラム「織田作之助と『大阪』」

平成 24 年 4 月 14 日（土）、第 3 回大阪都市遺産フォーラム「織田作之助と『大阪』」を開催した。織田作之助は大阪を代表する作家であり、来年は生誕百周年という記念すべき年にあたる。織田作之助は市民、メディア、学界から注目を浴びており、当日は 280 名もの方が来場した。

午前の部には、川島雄三監督『わが町』の上映と笹川慶子研究員（関西大学文学部准教授 / センター研究員）による映画解説、午後の部では増田周子研究員（関西大学文学部教授 / センター研究員）による基調講演「『六白金星』一草稿・原稿をめぐる考察」とパネルディスカッションが行われた。オダサク倶楽部からお招きした

パネリストの高橋俊郎氏（大阪市立中央図書館副館長）は「オダサク」の人物像と作品について語り、橋寺知子研究員（関西大学環境都市工学部准教授 / センター研究員）は織田作之助が生きた時代の風景や建築について紹介した。

本フォーラムは関連行事として「織田作之助と『大阪』展」を関西大学総合図書館展示室で開催した。関西大学図書館からは書籍、自筆原稿や書簡類 19 点、オダサク倶楽部からは正弁丹吾亭前句碑除幕式のパネルと句帳「星欄干」、「六白金星」の初出誌『新生』の 3 点が出品され、当センターからは昨年に入手した未発表の自筆原稿「六白金星」を展示した。



これまで、昭和 15 年の『文芸』9 月号に掲載されるはずであった作品は「続夫婦善哉」ではないかといわれてきた。しかし、当センターの自筆原稿「六白金星」に「文芸九月号小説原稿」とあることから、発禁処分をうけ、『文

芸』9 月号に掲載されなかった作品が「六白金星」であることが確定した。そのような経緯を含め、当センターの「六白金星」は来場者の注目を集めた。

(R.A. 岩田 陽子)

平成 23 年度第 2 回研究例会

平成 23 年度の第 2 回研究例会が、平成 23 年 11 月 24 日に開催された。今回は、サブテーマ B「商都大阪」班が進めている近代大阪の人口統計のデータ化と大阪府立中央図書館に所蔵されている住友文庫についての調査にもとづく成果が報告された。

森山雄大氏（本学経済学研究科前期課程）による「明治・大正期大阪府の市郡別人口推計」では、現在、歴史人口学においては人口統計の空白期とされている 1871 年～ 1920 年の人口の推計について『大阪府統計書』の調査で得られた成果が報告された。転出・転入の手続きが確立されていなかった明治・大正期の現住人口を正確に把握することは非常に困難な作業ではあるものの、緻密な解析により、当該期の大阪府の市郡別の「修正現住人口」が求められ、人口の水増しが、大阪市は鮮明で、他の市郡では地域差があること、また、大阪市の出生率は増加傾向にあり、死亡率は変化が大きいものの横ばい傾向だったことが指摘された。

乾博幸氏による「ベルリン大学で学ぶロシアの医学生—数量的分析を中心に—」では、大阪府立中央図書館所蔵の住友文庫医学博士論文の整理・基礎調査の成果が報告された。住友文庫には、1919 年に理化学研究所の田丸節郎氏が住友家の資金提供を受けて購入した理化学に関する書籍や雑誌が収められており、ドイツの 27 大学に提出された 2769 名分の医学博士論文が含まれている。そのうち、ロシア帝国出身者は 13.9% を占めることが明らかにされた。ベルリン大学医学部の留学生数では半数以上に及んでいる。その背景には、当時、ロシアの大学が官僚養成の場から専門職を養成する場へと変化したことが影響するとみられ、そのために専門家としての能力を身につけるために、多くのロシア人が留学生としてベルリン大学をはじめとするドイツの大学へと進んだのではないかと指摘された。

(特任研究員 櫻木 潤)

平成 24 年度第 1 回研究例会

平成 24 年度の第 1 回研究例会が、平成 24 年 6 月 6 日に開催された。今回は、サブテーマ A「水都大阪」班と可視化チーム合同で、都市景観の可視化がテーマとなった。

水田憲志氏（本学非常勤講師）による「仮製地形図による明治中期大阪の景観復原」では、江戸時代に「浪華八百八橋」とよばれた水都大阪が、明治から昭和へと時代が移り変わる中でどのように変化したのかを地形図をもとに可視化していくという作業の途中経過が報告された。今回の報告では、河川・街道・集落などが変化の視点として取り上げられたが、淀川の付け替えによる集落の改廃や大阪市の南部への市街地拡大が旧街道に沿っていることなどが地形図上に鮮やかに浮かび上がった。

藤野友輔（本学総合情報学研究科前期課程）・林武文研究員による「CG による景観復元と古写真データベースの構築について」では、CG による大阪都市景観の復元として制作されている「道頓堀五座の風景」の道頓堀川から見た CG の途中経過が報告され、大正末期から



昭和初期で激変する芝居町道頓堀の CG 化の難しさなどが指摘された。また、見やすく扱いやすい DB の構築や DB にする資料の著作権の問題など、DB 構築にむけた課題が指摘された。

(特別任用研究員 櫻木 潤)

フィールドワーク「織田作之助の『木の都』をあるく」

第3回大阪都市遺産フォーラム「織田作之助と大阪」の関連行事として「織田作之助『木の都』を歩く」が2012年5月12日に開催された。

52名の参加者は13時に高津宮に集まり、講師の橋寺知子氏（環境都市工学部准教授／大阪都市遺産研究センター研究員）と高橋俊郎氏（大阪市立中央図書館副館長／オダサク倶楽部）の説明を受けた。高橋氏の作品解

説とともに生国魂神社や口縄坂など「木の都」にちなんだ場所をめぐり、法善寺で解散した。織田作之助が生きていた時期から街の様子は様変わりしてしまっただが、橋寺氏の解説によって彼が見ていた景色を思い描くことができ、参加者は熱心に耳を傾けていた。

（R.A. 相良 真理子）



第2回大阪都市遺産研究会

2012年2月16日、第2回大阪都市遺産研究会が開催された。浅野阿貴氏（文学研究科博士課程前期課程2回生）が、「北船場に本社を置いた会社の変遷—明治・大正期を中心として—」のタイトルで研究発表を行った。コメンテーターは大谷渡氏（文学部教授／大阪都市遺産研究センターサブリーダー）であった。

浅野氏は、明治後期から大正期にかけて船場に本社機能を置いた会社を『大阪府下会社組合工場一覧』『大阪府下組合会社銀行市場工場実業団体一覧』『大阪市商工名鑑』『帝国銀行会社要録』を使って拾い出し、町、業種、会社の規模、設立年など様々な角度から分析を行った。さらに、新聞記事や広告、社史などで会社ごとの情報を丹念に調べ上げた。記事とデータを合わせて考察することによって、船場は会社の出入りが激しい地域であったことや、地価の高騰によってビルディング化が進み貸室が増加したことが明らかになった。また、船場の筋ごと



の特徴や会社の移転の様子など地図を使っての説明もあった。参加者には学部の学生もおり、地道な調査に根差した研究成果の発表の後、熱心に議論が交わされた。

なお、浅野阿貴氏執筆の『『北船場』に本社を置いた会社の変遷—明治末・大正期を中心として—』は、『都市遺産研究』第2号（関西大学大阪都市遺産研究センター刊、2012年3月）に掲載されている。

（R.A. 相良 真理子）

ホームページに「可視化チーム」のサイトを開設

センターでは、豊臣期を起点に、近現代大阪の都市景観の変遷について、CG映像やデジタルコンテンツなどの可視化技術を用いて、その史的意味を視覚的に検証する作業を進めている。このたび、その成果を公開するた

めに、センターホームページ内に「可視化チーム」のサイトを開設した（<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/visual.html>）。

現在公開中の「CGによる大阪都市景観の復元」では、

大正 12 年（1923）に松竹座が完成する以前の芝居町道頓堀の街並みを再現した動画映像「道頓堀五座の風景」と、道頓堀五座と呼ばれて賑わった芝居小屋の静止画を見ることができる。

また、『『豊臣期大坂図屏風』デジタルコンテンツ』では、オーストリア・グラーツ市のエッゲンベルク城（世界遺産）所蔵の「豊臣期大坂図屏風」について、エッゲンベルク城や、屏風を所蔵してきたエッゲンベルク家、屏風に描かれた景観の解説が web 上で操作することで閲覧することができる。

このサイトは、文系と情報系との融合を目指すセンターならではの研究成果であり、今後の調査・研究によって現在公開中の映像などを随時更新していくとともに、

近日中には、地形図をもとに復元した「水都大阪」の景観変遷のページを新たに加えるなど、充実を図ってきたい。（特別任用研究員 櫻木 潤）



新刊紹介

この度、本研究センターより『2011 大阪都市遺産 秋の国際シンポジウム 青春と戦争の惨禍 大阪日赤と救護看護婦 研究報告集』、大阪都市遺産研究叢書別集 1『明治・大正 大阪映画文化の誕生 「ローカル」な映画史の地平にむけて』、『大阪都市遺産研究 第 2 号』が刊行された。



大谷 渡編『2011 大阪都市遺産 秋の国際シンポジウム 青春と戦争の惨禍 大阪日赤と救護看護婦 研究報告集』関西大学大阪都市遺産研究センター、平成 23 年 9 月 20 日



笹川慶子『明治・大正 大阪映画文化の誕生 「ローカル」な映画史の地平にむけて 大阪都市遺産研究叢書 別集 1』関西大学大阪都市遺産研究センター、平成 24 年 3 月 20 日



『大阪都市遺産研究 第 2 号』関西大学大阪都市遺産研究センター、平成 24 年 3 月 20 日

リサーチ・アシスタントの任用

関西大学大阪都市遺産研究センターでは、2012 年度 4 月 1 日より、リサーチ・アシスタントとして以下の 3 名を任用した。

岩田 陽子（リサーチ・アシスタント）
王 海（リサーチ・アシスタント）
相良 真理子（リサーチ・アシスタント）

関西大学大阪都市遺産研究センター NewsLetter No. 6 2012 年 6 月 30 日発行

発行・編集 関西大学大阪都市遺産研究センター

〒 564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学博物館内

TEL 06-6368-0095 FAX 06-6368-0092

<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/>

mail osaka-toshi@ml.kandai.jp

